

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的・基本的な内容の定着と、生徒自身による学習の自己調整が課題である。全教科で個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるとともに、学習履歴を活用し生徒自身が見通しをもって学習することを推進する。これにより、個に応じた指導の充実と、主体的な学習習慣の確立を目指す。
思考・判断・表現	キャリア教育の視点を取り入れた、「見通しを持って目標を立てる力」と「論理的表現力」の育成が課題である。生徒が自ら問いを立て、解決のプロセスを論理的に説明する場面を設定すること、根拠を明確にした記述力を高めること、引き続き相互評価を取り入れ、表現の質を向上させる必要がある。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語「話すこと」「聞くこと」 数学「関数」「データの活用」 &lt;指導上の課題&gt; 基礎的・基本的な知識・技能が身につけている生徒と全くできていない生徒の差が大きい。反復や振り返りの時間を確保しながら、個に応じた指導を充実させていく。</p>	<p>⇒ 個別最適な学びと協働的な学びを目指した授業を各教科で行い、その成果と課題を共有する。【1か月に1回】 授業の最初に前時の振り返りを行い、基礎的・基本的な内容の定着を行う。【毎時間】 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」「小テスト」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復や習熟に取り組む。【単元ごとに実施】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語「話すこと」「聞くこと」 数学「関数」「データの活用」 &lt;指導上の課題&gt; 生徒が発表する場面の設定が十分にできていないため、生徒が主体的に考え、自分の意見を表現する場面を増やしていく必要がある。</p>	<p>⇒ 学びの「じ・し・や・く」に基づく授業を各教科で行い、その成果と課題を共有する。【月に1度】 自ら立てた目標や課題の解決を目指した探究的な学びを各教科で行っていく。【単元ごとに実施】 指導と評価の一体化を図る中で、生徒同士の相互評価を取り入れる。【単元ごとに実施】</p>

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	結果分析(管理職・学年主任等)	1人1台端末を活用したドリル学習や、単元ごとの小テストを継続的に実施し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟を図った。一定の成果は見られたが、自ら目標を立てて不足を補う自己調整について個人差が見られた。
思考・判断・表現	B	共有(児童生徒の美感把握) 職員会議・校内研修等	クラウドツールを活用した協働学習を推進し、他者の多様な考えに触れる場面を設けた。アウトプットの量は増加したが、情報の根拠を明確にして表現する力の育成については、教科によって成果に差が見られた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について成果がみられた。引き続き、スタディサプリや小テストを活用して、基礎的・基本的な内容の反復や習熟に取り組む。 数学では、特に「数と式」の分野について大きな成果がみられた。一方で、「図形」の問題で「語句の意味を理解しているか」について課題がみられた。引き続き、繰り返し反復学習を行う。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るなどして、基礎的・基本的な内容の定着を行う。
思考・判断・表現	国語では、「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫する」問題に課題がみられた。文章の内容を精査し、生徒同士でも文章を評価し合うなどして自分の考えが分かりやすく伝えるような表現を追究させたい。 数学では、「数と式」、「関数の分野で成果がみられたが、「データの活用」の分野の「確率」の問題で、「起こりやすさを数学的な表現を用いて説明すること」について課題がみられた。引き続き、「なぜそうなるのか」を大切に論理的思考力や表現力を高めていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	同一集団での経年比較により、国語、理科の知識・技能について改善がみられる一方で、数学、社会に課題がみられた。数学の「図形」等で見られる語句の理解不足は、個別最適な学びにおける基礎的・習熟の質に差があると考えられる。ドリルパークやスタディサプリ等を活用し、生徒自身が自分の弱点を把握して自己調整するサイクルを確立させる必要がある。
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、国語、数学の思考・判断・表現について改善の兆しがあるが、社会・理科に課題がみられた。特に数学の「確率」における数学的表現力や、国語の「表現の工夫」、社会・理科においても「資料を活用して自分の考えを論理的に記述する力」など、根拠を伴った記述に課題がある。研究主題に掲げる「協働的な学び」を通じ、他者の視点を取り入れて自分の考えを再構築する場面の質的向上が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎時間、協働的な学びを意識した授業を行っている。一方で、個別最適な学びについては課題がある。授業研究日や校内研修を活用し、成果と課題の共有と実践を継続していく必要がある。 既習事項の確認を反復して行った。また小テスト等を単元ごとに実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図ったが、身につけている生徒とそうでない生徒の差がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びのポイント「じ・し・や・く」について、特にクラウド活用では、Teams、Excelの共同編集等を活用して全体共有を効率化することができている。 探究的な学びについては、課題があるので、授業研究日や校内研修を活用し、成果と課題の共有と実践を継続していく必要がある。 協働的な学びの中で、生徒同士で相互に評価する場面を設定できた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)